



校友会の前向きで元気な活動と 小さな親切心の育成を！

産業能率大学通教校友会 会長 佐藤富夫

新年明けましておめでとうございます。
日頃より校友会活動に対し、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます

2019年12月に発生した新型コロナウイルスは2023年5月に5類となりましたが、私たちの生活にまだ深い影響を及ぼし続けております。また、世界各地で紛争や侵略戦争が続いており、決して明るいとは言えない世界情勢ですが、こういう時こそポジティブ思考での行動が必要です。昨年秋頃より埼玉支部、関東交流会、大阪支部、広島支部等、各支部の前向きな活動を直接拝見する機会を得ました。改めて大きく前進できる校友会であると確信いたしました。2024年も校友会本部は前向きな活動を展開していきます。各支部・各グループ同好会も新しいテーマに前向きにチャレンジしていただくことが大切であると思っています。

現況の日本社会では、人口減少、高齢化の

進展等による人手不足が各分野で影響を表しはじめています。また、諸外国の経済発展との格差、円安等の要因により、海外の人材を獲得することも難しくなっています。私は仕事で外国の若い人材を日本国内企業に紹介しております。厳しい状況ではありますが、少しずつ前向きな話が出てくるようになったと思われまふ。何事も先を見て一步一步前進あるのみ、有言実行型人間として頑張っている途中です。

さて、話は変わりますが、「小さな親切運動」というのはご存じかと思ひます。これは、1963年3月の東京大学の卒業式告辞で、茅誠司総長(当時)が「「小さな親切」を勇氣を持ってやっていただきたい。～中略～諸君は、人文・社会・自然の3分野にわたって、広い教養科目の学修をされました。この教養を、ただ頭の中にエンサイクロペディア式に蓄えておくだけでは立派な社会人とはなれまふ。しかし、この「小さな親切」を

絶えず行っていくということは、このバラバラなエンサイクロペディア式知識を融合させる粘着剤の役目をつとめ、ひいては立派な社会人としての人間形成の基盤となることと信じます。」と述べました。この卒業告辞に感銘を受けた人々が提唱者となり、小さな親切運動は始まりました。昨今の状況を鑑みると改めて「小さな親切」の心の育成が必要な時代に入ったと思ひてなりません。

いずれにしろウクライナを始め各国、各地域の紛争が早期に終結されることを期待しております。

最後になりましたが、大学及び校友会の益々の発展を心より願ひ、皆様方のご意見に耳を傾けながら、産業能率大学通教校友会は新しい目標に向け、有言実行で活動を展開して行きます。昨年通り変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願いすると共に、皆様の益々のご健勝をお祈りし、新年の挨拶と致します。